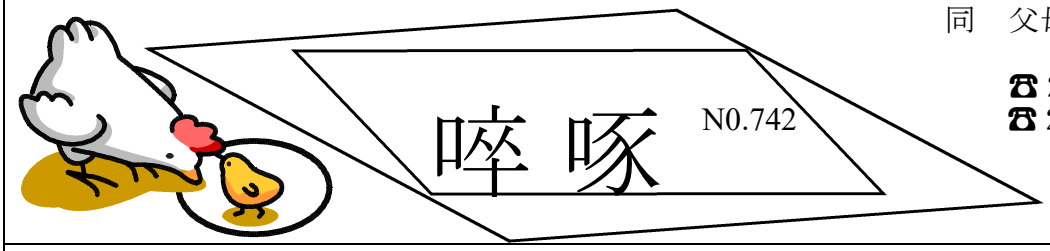
令和３年４月２０日

八戸市立新井田小学校
同　父母と教師の会

☎２５－５１２５
☎２５－３１５０



令和３年度の学校目標について

～他者や集団との関係の中で、自分に自信をもち、
生き生きと活動できる子どもの育成～

校　長　成　田　明　彦

新１年生９３名を迎え、４月７日に無事、入学式を実施することができました。緊張している様子の子もいましたが、教科書や黄色い交通安全帽子、防犯笛を受け取る子をはじめ、どの子も立派な態度で式に参加できました。ただ、日頃から何かとお力添えをいただいている地域のご来賓の皆様と一緒に入学をお祝いできなかったことを大変残念に思っております。

さて、本校の教育目標は、昨年度新たに制定した「夢に向かい　考え　行動する子」です。子ども一人一人が明確な夢（希望、目標）をもち、よく考えて判断し、行動する力が身に付くよう、「あたまつくり」「こころつくり」「からだつくり」に取り組みます。

その中でも特に今年度力を入れて取り組む学校目標が、「他者や集団との関係の中で、自分に自信をもち、生き生きと活動できる子どもの育成」です。一人一人の児童が「自分は価値ある存在」「自分は役に立つ行動をしている」「自分の行動や存在が認められている」と自覚し、自信をもって生き生きと活動できるよう、「自己有用感」を高めることに昨年度から取り組んできました。そして、教育目標達成の基盤となる「学校に行くことが楽しい」と言える児童を増やすことを目指してきました。

その結果、「教師からほめられた」「話をじっくり聴いてもらったり、話しかけられたりした」「人間関係づくりを支援してもらった」ことは認められ、目標達成の評価基準をほぼ達成したものの、それらが自分には「よいところがある」「みんなのために役立っている」と自覚する迄には至らなかったという課題が残りました。

そこで今年度は、学校目標を継続し、新たにご家庭にも協力をお願いする（５）を設け、「自己有用感」を高める取り組みをパワーアップしていきます。

＜「自己有用感」を高める５つのポイント ＞
（１）子どもをよく見て、その子に応じてほめる。
（２）子どもの話をじっくり聴いたり、子どもに話しかけたりする。
（３）一人一人に活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせる。
（４）子ども同士が認め合う場を設定するなど、人間関係づくりを支援する。
（５）家庭での子どもの取り組みやがんばりを認め、ほめる。

学校目標の達成状況は、「自己有用感」及び「学校目標」に関わる児童・保護者アンケートを３回実施して調べます。最終的には、児童アンケートで「学校に行くことが楽しい」と回答した割合が昨年度を上回ることを目指します。

新型コロナウィルス感染拡大の影響で、計画していた教育活動を修正・変更しなければならないことがあるかもしれませんが、子どもたちが安心して学校に登校できることを第一に考えてまいります。行事等の変更については、お便り等で事前にお知らせいたしますので、保護者の皆様の御理解・御協力をお願いいたします。

「啐啄」（そったく）：「啐」は卵がかえる時、殻の中で雛がつつく音、
「啄」は母鶏が殻をかみ破ること。